

Weekly Report

東京お茶の水ロータリークラブ



2024-25年度RI会長 ステファニー A. アーチック

ロータリーのマジック

第2580地区ガバナー 石川 彌八郎

隔たりを取り除き、「ご縁」を大切に

ロータリー活動を
最大限に楽しもう!

2024-25年度 クラブ会長 海江田 健司

本日の卓話 地域発展を担う生徒の育成を目指した 地域協働活動の充実 千代田区立神田一橋中学校 校長 盛谷 樹様

司会進行

- 点鐘
- それぞこそロータリー
- ゲスト・ビジター紹介
- ニコニコボックス報告
- 会長報告
- 幹事報告
- 副幹事報告
- 出席報告

- 神保 宏充会員
- 海江田健司会長
- 佐々木啓策会員
- 角田 靖会員
- 神保 宏充会員
- 海江田健司会長
- 中野 広行幹事
- 山田丈夫副会長
- 神保 宏充会員

副幹事報告 山田 丈夫副会長

・次年度委員長の皆様に事業計画書の作成のお願い
をしておりますが、締め切りは本日5月21日です。
事務局までご提出よろしくお祈いします。

ロータリーの友5月号の紹介 和田 夏彦会員

3つ紹介したいことがあります。
まず、特集「青少年奉仕月間 ミライへの扉を開く」、東京八王子 RC の地域を巻き込んだプログラミングコンテスト開催の話が載っています。八王子にある5つのRCが協力し、その後社団法人を立ち上げ、八王子の小中学校が参加し、プログラミングコンテストをやっています。地道にやっていたことが、大きな取り組みになったということでご紹介しました。
次は、57 ページにある「企業・組織におけるメンタルヘルスはなぜ大事か」という特集記事です。メンタルヘルス、よく言われていますが、非常に罹患率が高く、日本人の3%が罹患しています。精神疾患、精神的問題、精神的ウェルビーイング、3種類に分けられるのですが、そういったものにかかっている、100人に3人が精神科で治療中とのことです。またこれらの90%以上の方が外来で通院しながら普通に生活しているそうです。企業の話になりますと、世界の労働者33億人の半数以上が企業・組織で働いて非常に大きな数ですので、そういった点も触れられています。また人手不足で、日本人の人手不足の割合が20%、10人でやる仕事を8人でやらなくてはいけないということだそうです。健康的に仕事に打ち込めるといことは大事だなと思いました。
最後、RI 日本事務局の紹介記事です。RI には世界に6つの国際事務局があり、日本はそのうちのひとつです。他にブラジル、スイス、韓国、インド、オーストラリアにありますが、ロータリーにおける日本の位置づけが非常に重要だと、私は初めて知りました。

ゲスト・ビジター

ゲストスピーカー 清水 篤様

誕生日祝い

5月20日 加藤 丈晴会員



ニコニコボックス

- 海江田会長 清水様、本日の卓話楽しみにしております。よろしくお祈いします。
- 土居会員 海江田年度もあと1ヶ月です。お役目は続きますがね。いろいろお疲れ様です。
- 神保会員 清水様、本日の卓話どうぞよろしくお祈いします。
- 加藤会員 本日の卓話よろしくお祈いします。本日も楽しく参りましょう!!
- 高山会員 「本の街」がんばれ!
- 山下会員 本日の清水さんの卓話が楽しみです。今本さんご紹介ありがとうございます。計 12,000 円 累計 899,187 円

会長報告 海江田 健司会長

- ・米山記念奨学会より、張会員に米山功労者(20回)の感謝状が届きました。



幹事報告 中野 広行幹事

- ・5月度新旧合同理事役員会の議事録を配布いたしました。
- ・次週28日はブックハウスカフェでの例会です。お間違えのないようお祈いします。
- ・ミャンマー大震災支援金および、月1回断食基金へのご協力、ありがとうございました。

出席報告

会員数	36名	ゲスト	1名
出席	21名	ビジター	0名
ZOOM	1名	合計	23名

2025年4月23日(水)・24日(木)

2024-25年度国際ロータリー

第2580地区 地区大会 参加報告

■加藤 文晴会員

4月24日地区大会 新入会員昼食会感想

まず今回の企画趣旨に感謝いたします。入会年数の浅いほぼ同期の方との会話できるチャンスを頂いたことに有難いと思います。

ディスカッションの中で他クラブの方の入会の動機きっかけ等普段聞けないような話が聴けて親近感と同時に仲間意識が芽生えました。その他ロータリーそのものについて分からないことや、どのような気持ち考えて参加されているのか等が少し聞けたことに自分と同じような思いや不安等が共有できたことに安心感を覚えました。

また他クラブの古参会員の方々の話も聞け、クラブによってそれぞれの特徴や、良い悪いの話が聞けたこととても良かったです。

他クラブの方たちの方が、このような内容については話し易いと思います。

■日根野 雅敏会員

国際ロータリー第2580地区 2024-25年度地区大会に参加して

今回の地区大会、私にとって初めて参加する地区大会でした。

当初予想していたものより参加人数、会場、内容のすべてが大規模で1年に一度にふさわしい大会であると感じました。

特に海外からRI会長代理ご夫妻の他、多数の来賓が参加されスピーチも地区大会に向けた意義のあるものであったと感じました。

当日の午前中に行われた入会3年未満の昼食会も鈴木孝雄パストガバナーの隣の席につき、とても親切に会話して頂き感銘しました。

本会議では石川ガバナーのロータリアンとしての意義付けや来賓の方への言葉などに感じ入るものがあり、特に終盤の話は感慨深いものがありました。

全体の印象としては特に参加者の人数の多さには驚きました。

地区のクラブ全員が参加したわけではありませんが会場がロータリアンで埋めつくされ、各クラブの紹介ごとに手を振る人たちを見てあらためて規模の大きさや東京だけでなく沖縄からも参加されていて広範囲であることを痛感しました。

もう一点、今回の地区大会は初めての参加であると同時に次々回の地区大会で当クラブがホストクラブになることから運営側の視点からとても興味深く意識して参加しました。ホテルや会場の広さやレイアウト、受付、席次、照明やスクリーン、音響、司会の進行等々。

これを当クラブが段取りすると思うと大変な準備作業が必要と感じました。

2日間に渡る行事でしたが私は2日目のみの参加でしたので1日目の行事は経験できませんでしたので想像が付きませんがホストクラブの方々も準備に苦労されたと感じました。

運営では特に来賓の檀上への招き入れや動線が難しいと感じました。

また、上手く進んでいく点にはかえって気づきにくかったかもしれません。

最後の懇親会については場所を昼食会場と同じホテルに徒歩で戻っての開催でしたが、会場内はカオス状態で一考すべきかと感じました。

特に台湾からの会長代理の同行の方々が会場内で立ち尽くしていたのは誘導に課題がありました。

懇親会は当日の最後の行事でしたのでスタッフの方々もそこまで手が回らなかったと推察しますが来賓への対応は重要と感じました。

いずれにせよロータリークラブの意味と大切さを認識した地区大会でした。

今後の予定

- 6/4(水) (於)東京ドームホテル
クラブ協議会「次年度事業計画の発表」
- 6/11(水) 休会
- 6/12(木) ~6/13(金) 親睦旅行・日光方面
- 6/18(水) 夜間例会
- 6/25(水) (於)東京ドームホテル
「退任の挨拶」
海江田 健司会長・中野 広行幹事

新しい人間関係と人生の喜びを考える

シェイクスピア・ギャラリーと、「新・本の街」から

シェイクスピア・ギャラリー オーナー 清水 篤様

「音楽友の会」や「美術書の読書会」。。。
ギャラリーは何を目指してきたのだろう

今回折角の機会を頂いたので、私の活動について、今日に至った経緯を振り返ってみたい。



この駿河台に住み始めたのが十数年前だが、そこで出会った人達が今の私を導いてくれた。その一人不動産屋のAさんとの出会いは、彼が地元の町で若手音楽家を支援する為に身銭を切って、「フィガロの結婚」はじめ本格的なオペラを連続上演していたのを私がたまたま知った事だった。マンションの管理組合の会議で、携帯電話でAさんが「オペラ」という言葉を発したのを私が小耳に挟んだのだ。「オペラ好きなんですか？」と私は尋ねた。

四千円でチケットを買って出掛けたら、大ホールを借りて音楽家を集めた壮大なオペラ公演だった。終了後Aさんを囲むレストランでの懇親会もあった。そのA氏の友人Bさんとはそこで初めて会ったのだが、Bさんはオーストリア民俗音楽を日本に紹介するプロモーターで、また「パーティーの達人」だった。

AさんBさんらの企画する、音楽会、晚餐会そして旅行に、私たち夫婦や趣味を同じくする仲間たちが加わるようになり（年間何回もあるのだ）、その数あつという間に三十人五十人。。。と膨れ上がった。開業前に実はこんな事があり、その根拠地としてギャラリーは誕生した。「絵を売る」美術商は言わば後づけで、人の集まりがまずあったのだ。

「必要悪？」としての社内飲みニケーション

AさんBさんの来歴もあって、イベントはオペラ絡みが多く、参加者もアラ還暦の夫婦が中心だ。会社関係でない、学校の同窓会でない、子供のママ友でもない、文化芸術の「純粹趣味の会」だ。女性は初対面でもすぐ友人を作れるが、男は動作がぎこちなく、初対面の人と話すのは苦手だ。特に「エライ」人は駄目だ。

そこで自分自身の会社生活を思い起こせば、果して会社の付き合いというのは「楽しく有意義なものだったのか」という疑問だ。私自身は酒も飲めない、ゴルフもしないで「社内交際力」は零点に近く、だから古本やクラシック音楽、そして趣味の道を驀走した訳だが、社内の上司や同僚と酒やゴルフで集った人達は果して（参加時も）幸せだったのだろうか。。。という疑問である。

私がいた会社は（他社も概ね似たようなものだろうが）年功序列に変わる「評価主義人事」が当時猛威を振っていた。それも部下や、他の人も評価する「360度評価」という、空前絶後の仕組みだった。それで「人事のプロ」

がこれら飲み会にも潜入し聞き耳を立て、得た情報を昇格や異動など人事資料に活用したと聞いたので、まあ「凄い会社」ではあった。私は早く落ちこぼれたから（皆さんも当然と思うだろうが）「被害」は少なかったが、この出世競争の勝者も「良い会社だった」と言える幸福感は果してあるのだろうか。以上は噂話も含み真偽は不明だが、馬鹿馬鹿しいと呆れていた社員も当然多かったろう。

私はこの会社が世の中で特別悪いとは思わない。人事評価だけの問題でもない。しかしこんな職場で、私的会話や人間関係が出来るとは思えない。社内の噂話や悪口（当然いない人の）がネタの、一種の「必要悪？」として社内飲みニケーションはありえても、今も良い印象はほとんど持っていない（皆さんも概ね、そのようなものではないか）。

日本の会社生活に関連して、私が「スジが悪い」と思うのは、会社がある面ムラである事が社会常識となっているので、組織の上位者があたかも「人格的に優れている」かのような誤解をしている事だ。それら上位者とその家族が「社会の勝者」とならなければ、日本社会が崩れてしまうように騒ぐ、NK新聞的「常識」？に若い頃から辟易してきた。

「会社人生」に代わる、コミュニティ作りへ

さて昨今情報社会の進展と比例するように、「孤独」対策は日本でも担当大臣を置く深刻な問題らしい。家庭や地域共同体の絆が薄れ、会社単位の間人間関係は上述のように地に堕ち、逆に昨今は会社の方から人間的繋がりを重視して「社内飲み会」や「運動会」を奨励する風潮だ。困るのは、会社一筋の貢献を長年美德とされながら、定年で放り出された男達だ。「会社に置いてくれ」と泣きついた等の話も聞く。しかし私は、この事態を想定し以前から少しずつ動けば、仲間作りまた地域コミュニティ作りは可能なのだと思う。あとは自分の嗅覚と熱心さ、そして新しい仲間を作る、少しばかりの勇気だ。

そしてここからが大事だが、この神保町お茶の水という「本の街」界限は、歴史的にもそのような仲間作りと文化芸術の揺籃となる地域だった（私が憧れるパリのセーヌ左岸と同様）。そして雑誌「新本の街」もそのような仲間作り、コミュニティ形成に寄与できるようなメディアにしたい。

